個別共同研究 4

持続と変容の実態の研究

── 対馬 60 年を事例として ──

調査の経過と概要

本プロジェクトのテーマ「持続と変容」の研究は，時間の経過の中で持続するものと変容しているものとを単純に振り分ける作業だけを意味しているわけではない．持続しているように見えるものの背後に変容している要素を探り，変容しているものの基底にあって変容を方向付けている持続する構造をえぐりだし，文化や社会の動態的理解を深めることを目的にする．しかし，その第一歩は，変化の諸相を描き出すことによって踏み出されるほかはない．その場合，過去のある時点での文化や社会の記録が残されていれば，それは有力な手掛かりになる．

そうした観点から，われわれが注目したのは，九学会連合による日本各地の共同調査の記録である．特に，第一回共同調査の記録には，集落単位の集中調査の記述が含まれており，これはわれわれの研究のモデルケースとして使えるのではないかと予想した．それが対馬であった．その対馬は，現在，日本各地の島嶼，山間部と同じく，過疎と経済の停滞に悩む地方であり，戦後の 65 年間で大きな変化を蒙っている地域であることも分かっていた．したがって，その大きな変化をとらえ，分析する作業は，日本全国の「衰退する地方」の抱えている問題を考える上でも大きな意味を持つことになると考えた．

そこで，COE の後継組織として設置されることになった非文字資料研究センターの共同研究プロジェクトの一つとして申請し，承認を受けた．ちなみに，このプロジェクトは，非文字資料研究センターとして COE 当時の課題を引き継がない唯一の新規プロジェクトであった．

それはともかく，新規プロジェクトは，責任者を橋川俊忠，建築史の津田良樹を共同研究者とし，元 COE・PD 研究員で地理学の藤永豪，同じく元 COE・PD 研究員で対馬調査の経験のある本田佳奈を研究協力者としてスタートすることにした．センターの運営方針によって，研究期間，予算に制限があることから，小規模の調査しか実施できないため，研究グループのメンバーも限定せざるをえなかった．また，藤永は，赴任先の事情によって調査に参加できず，実質的には藤永を除く 3 名による調査になってしまった．なお，第 2 回，第 3 回の調査には，歴史民俗資料学研究科後期課程に在籍する磯貝奈津子に調査補助者として同行してもらった．

調査は，2008 年から開始し，以下の日程で計 6 回実施した．

第 1 回　08 年 7 月 29 日～8 月 1 日
第 2 回　09 年 3 月 18 日～21 日
第 3 回　09 年 9 月 16 日～20 日
第 4 回　10 年 3 月 7 日～11 日

第5回　10年9月16日～20日

第6回　11年2月24日～27日

第1回の調査は，対馬全体の状況把握につとめるとともに，調査対象地域の確定のため九学会共同調査の対象となった鰐浦・鴨居瀬・豆酘・廻および志多留（志多留は九学会の調査対象地にはなっていないが，1972年に長崎市教育委員会から『対馬西岸阿連・志多留の民俗』という調査報告書が刊行されており，比較が可能な条件があると判断した）の各集落の実地見分と基礎的資料の所在確認を実施した．また，厳原の法務局において，新旧地籍図を閲覧し，一部を撮影した．さらに，この調査の折には，比田勝のスナックの主人飯田邦彦氏の仲介によって，対馬の歴史研究の第一人者永富久恵氏にお会いして，九学会調査当時の様子や対馬郷土史研究の現状，氏の出身地である木坂の話などをお聞きすることができた．ただ，われわれの準備不足のため十分な聞き取りができなかったことが悔やまれる．

この調査の結果，調査対象集落の候補地を鰐浦・豆酘・廻・木坂・志多留に絞ることにした．

第2回の調査では，地籍図，土地台帳，家屋台帳および各市町村史・誌，広報誌などの基礎的資料の収集に重点を置いた．調査に当たっては，対馬市役所の総務課の根〆英夫氏に協力を依頼し，各地域振興センター等に連絡をとっていただいた．上対馬，上県，豊玉，峰の各地域振興センター（合併前の役場）で保管されている土地台帳，家屋台帳の閲覧・撮影を実施した．対応に当たっていただいた市役所および各地域振興センターの職員の方々に感謝したい．

また，この調査では，豆酘の民宿の主人竹岡博信の案内で天道信仰の聖地である竜良山（天道山）に登った．下山後，浅藻にまわり，天道法師の遺跡といわれる八丁郭の現況を確認した．

第3回の調査は，前回に引き続き，基礎的資料の収集を主要な目的として実施した．各支所の台帳類の補充調査の他に，調査設定地にかかわる航空写真等の入手にもつとめた．海岸部の集落は，とくに港湾部の変化が著しく，その概況を知るには港湾整備事業，道路整備事業等のたびに作成される申請書類に添付される航空写真が経年的変化を知るための資料として貴重な情報を与えてくれるからである．そのために，対馬市農林水産部と主要な港湾を管轄する長崎県対馬振興局農林水産部から航空写真を入手することができた．林班図作成のための航空写真の提供に便宜を図っていただいた長崎県対馬振興局林業課も含め，関係機関のご尽力に感謝申し上げたい．

また，この回から聞き取り調査を開始し，前記竹岡氏の叔母上の山下久子氏から，豆酘の生活全般の変化について話を聞くことができた．さらに，氏の案内で，対馬の代表的霊山の一つである白岳に登った．

第4回の調査では，豊，鰐浦を巡検し，対馬北部の霊山御岳を登った翌日から思わざる雪に見舞われ，対馬全島が通行止め状態となり，予定した豆酘の調査が実施できなかった．しかし，今回宿泊した小網の民宿の主人作元義文氏は，対馬市会の議長をつとめており，小網集落のみならず対馬全体の状況についても詳しく，いろいろな話をうかがうことができ有益な情報をいただくことができたのはかえって幸いであった．この調査では，作元氏の紹介で小網の村瀬敬三氏のお話を聞くことができた．村瀬氏は九学会調査や宮本常一の調査当時の状況を教えてくれただけではなく，村瀬家の歴史や小網集落の案内までしていただいた．

第５回の調査では，木坂，廻の両集落の調査に重点を置き，豆酘で聞き取りの補充調査をする予定で実施した．木坂では，永富家の御好意により，家屋の実測調査を実施した．また，廻では，作元氏から紹介された堀勝実氏からいろいろお話をうかがうと同時に『珠丸遭難の日に寄せて』と題する自分史の記録をいただいた．また，廻では堀氏と同席していた阿比留清兼氏には，廻周辺を案内していただき，さらに氏の父君が作成され，九学会調査の当時にも資料として提供されたと思われる廻に関する「覚書」を閲覧・撮影させていただいた．そして，豆酘では，前々回の調査でご協力いただいた山下久子氏に年中行事の実施状況を中心にお話をうかがった．

なお，この調査の折には，対馬市長財部能成氏と歓談する機会があり，対馬振興に取り組む市政の状況について知ることができた．

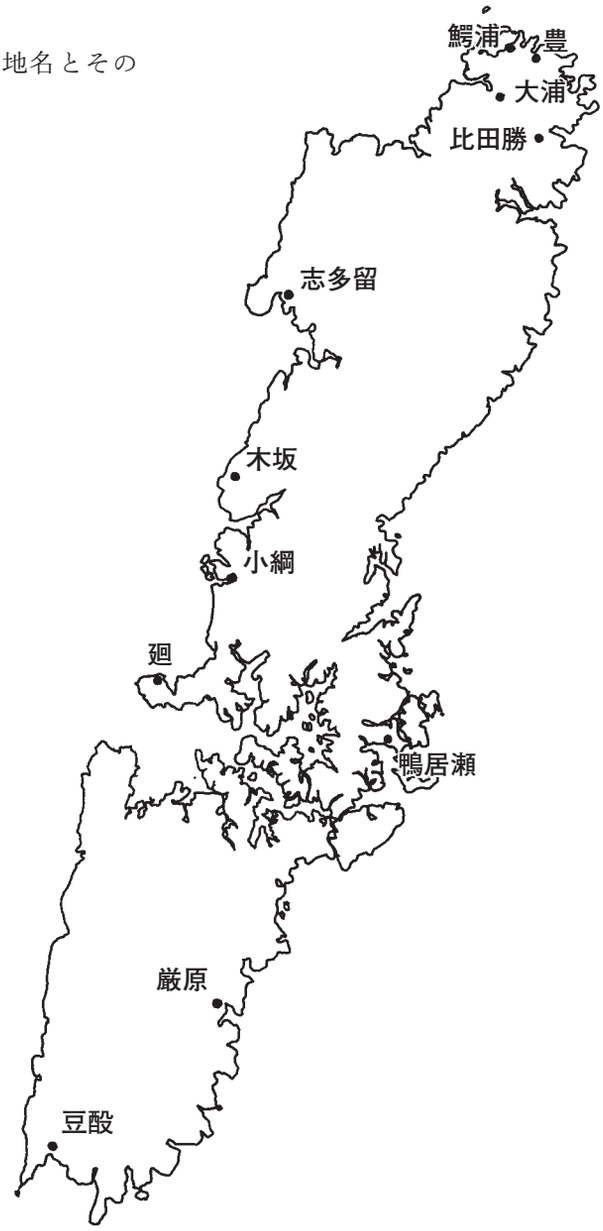
本プロジェクト最後の調査となった第６回調査では，周防大島に立ち寄った．同島の文化交流センターが所蔵する宮本常一が撮影した対馬関係の写真の調査のためである．その後対馬に渡り，この回も作元氏のお世話になった．木坂では，荒木幸美氏，鰐浦では宮原彦幸氏，浦埼秀則氏を紹介いただき，それぞれ貴重なお話をうかがうことができた．紹介の労をとっていただいた作元氏には感謝申し上げる．

以上が，本プロジェクトで実施した対馬調査の経過と概要である．当初に掲げた目標からすると，正直に言って十分とはいえない調査であった．統計資料類なども手に入れることができなかった．とくに，当方の準備不足によるが，聞き取り調査の不十分さは認めざるをえない．しかし，いくつかの新しい知見をうることはできたし，視点の提起もできたとは思う．あとに続くものが出ることを期待しつつ本プロジェクトの締めくくりとしたい．

（橘川俊忠）

［対馬全図］

「経過と概要」でふれた地名とその位置だけを示した.



既発表調査報告一覧

「対馬調査の課題と展望 ── 持続と変容の諸相を探る」	橘川俊忠	ニューズレター No. 20
「天道山登山の記」	同上	同 No. 22
「対馬の林産業に関する一次資料の調査の必要性について」	本田佳奈	同上
「対馬鰐浦集落にみる集落図・地籍図」	津田良樹	同上
「第二回対馬調査報告」	磯貝奈津子	同上
「変わる海，変わる生活」	橘川俊忠	同 No. 23
「イノシシのおいしいさばき方」	本田佳奈	同上
「家屋台帳からみた対馬市上県町志多留の民家について」	津田良樹	年報 6 号
「2009 年度対馬現地報告・目保呂国有林・豆酘龍良山国有林」	本田佳奈	同上